

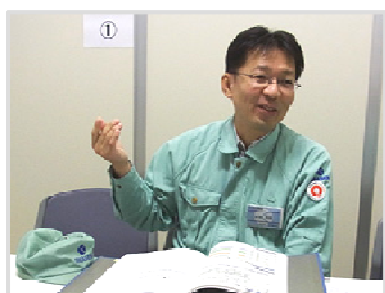
関係者インタビュー

株式会社今仙電機製作所

開発部 開発課 課長 曾根 利明氏 開発係 福嶋 洋氏

2012年11月12日 インタビュー:中部オフィス 大石 誠

「自分たち発」の製品を世に送り出すために ～技術者の思いが社会貢献につながる時～



曾根 利明氏

当社の経営理念は、“想像力を豊かにし、これまでに存在しない全く新しい製品・サービスを創造し、これをより安く、より速く、世の中に提供することで、人々の豊かな暮らしに貢献する”という事です。我々技術者はこの経営理念のもと、社会貢献につながることを常に意識し、日々新商品の開発に取り組んでおります。

当社では、自動車部品の製造販売を事業内容の主軸としており、これまで「シートアジャスタで世界トップ」を目指す、ということをやってきました。今回の研修参加を決めたのは、自動車部品関連事業以外で積極的に事業展開をすすめて行こうという事で、福祉機器への新たな取り組みをしていきたいと考えたからです。

◆福祉分野のニーズと販路を求めて

新規事業を立ち上げるにあたっては、今までのビジネスモデルとは違う難しさを感じることもありました。例えば、これまでは自動車事業のユーザーが求める部分、当社で言うとメーカーさんがある程度欲しいものの想定ができました。しかし、福祉分野はその人の体の状態によって必要なものが違うため、ニーズを明確にしなくては行けない。体の状態に合わせるためのフィーリングの検証など、ノウハウの獲得に苦心しています。現在、福祉施設で働いている方に対してアンケート調査をしているところですが、今後は実際に製品を使った方に伺いながら、使用感の調査も行いたいと考えています。

また、販路開拓の課題もあります。今まではメーカーさんとのつながりから発生する販路がありましたが、新規事業においては、どういう販路でどこに売り込もうか、思案を重ねています。

◆お客様の視点に立った「差別化」を目指す

今回の研修で特に印象的だったのは「差別化」です。特に、新しいものを作るにあたり、従来ある価値から少しだけ新しい価値軸にシフトして差別化する、という考え方は新鮮でした。

これまでも社外セミナーに積極的に参加し、一般的なマーケティング手法については理解しているつもりでしたが、しかし今回の研修は、技術者としてのマーケティング力、目線の置き方など、これまでとは全く違う視点からのもので、講義と実践を通して体系的にじっくりと学ぶことができました。医療福祉に限らず様々な新規事業を始めるにあたり、具体的な手法を習得できたことは大きな収穫だったと感じています。

◆夢の実現に向かって

まず我々がすべきことは「技術の棚卸し」と「ユーザーとのコミュニケーション」であると感じています。今まで蓄積された技術を整理し、活かして、新しいものを生み出す体系づくりをする。そしてユーザーの方々の様々なご要望に応えるために、しっかりボールを投げてキャッチボールをし、本当に必要とされている製品の開発を目指したいと思っています。必ずや自分たち発の製品を世に出す。そういう技術者としての強い思いが、社会貢献につながるのではないかと考えています。



福嶋 洋氏

■ 本事業に関するご紹介はこちらから >> http://www.jmac.co.jp/special/health_care/

【お問合せ】株式会社日本能率協会コンサルティング

TEL.03-3434-0982 mail:healthcare_jmac@jmac.co.jp

URL: <http://www.jmac.co.jp>